

介護老人保健施設 しおさい

症 例 概 要 ご利用者：90代 女性

病 名：胆管癌、胆嚢炎

利用サービス：長期入所

経 過：胆嚢炎を繰り返し、再手術困難と診断されたご利用者に対し、多職種が連携しながら「その人らしい時間」を支える支援を実施した症例である。ご本人の“やりたいこと”に寄り添い、外出や買い物支援などを通して生活意欲や表情に前向きな変化がみられた。また、ご家族とも継続的に思いを共有しながら関わることで信頼関係が深まり、病院ではなく当施設での看取りを希望されるに至った症例。

内 容

ご本人は入所前より胆嚢炎を繰り返し、その都度入退院や手術を重ねながら生活されていました。入所当初は「少しでも長く生きたい」「できる限り治療を続けたい」という思いが強く、延命治療や救急搬送を希望されていました。

しかし再び胆嚢炎を発症された際、医師より再手術は困難な状態であるとの説明を受けられました。ご本人だけでなくご家族も、「これからどこで、どのように過ごすことが本人にとって幸せなのか」と悩まれながら、再び当施設へ戻って来られました。

再入所当初のご本人は食事量も少なく、「もう長くないよね」「みんなに迷惑をかけてしまう」と悲観的な言葉が多く聞かれました。また、遠方に住まわれているご家族も、「本人の希望を十分に叶えてあげられない」「本当にこの選択で良かったのか」と葛藤を抱えておられました。

私たちは、“どこで最期を迎えるか”ではなく、“残された時間をその人らしく生きること”を大切にし、ご本人の思いに耳を傾け続けました。すると、「散歩がしたい」「買い物に行きたい」「好きなものを食べたい」といった希望を少しずつ話してくださるようになりました。

そこで多職種カンファレンスを開催し、「ご本人らしい時間を支えること」を共通目標として支援を開始しました。相談員、リハビリ職、介護職が連携し、馴染みのスーパーへの買い物や散歩などの外出支援を実施しました。好きなお菓子を選ばれる姿や穏やかな表情で散歩を楽しまれる姿が増え、「明日も元気でいたいからご飯を食べようかな」と前向きな言葉も聞かれるようになりました。その様子をご家族へ継続してお伝えしたことで、「施設で過ごす時間を本人が本当に楽しみにしている」「ここに帰って来られて良かったと話していました」と安心されたご様子が見られるようになりました。そして最終的に、ご家族より「病院ではなく、この施設で看取りをお願いしたい」とのお言葉をいただきました。

医療を中心とした“治療の場”ではなく、ご本人らしく穏やかに暮らせる“生活の場”として当施設を選ん

でいただけたことは、多職種が連携し、ご本人とご家族の思いに寄り添い続けた結果です。この事例は、当施設の理念である『もう一つの楽しい家』を体現するとともに、ご本人の人生の最終章を希望と笑顔に包まれたキラキラとした時間へ繋ぐことができた症例です。

【多職種による支援】

- ・看護：体調変化の早期把握と不安軽減を図り、安心して過ごせる環境を支援
- ・介護：思いを傾聴し、「やりたいこと」や前向きな気持ちを引き出す支援
- ・リハビリ：身体状況に応じた歩行・外出支援を行い、希望する活動を支援
- ・栄養課：嗜好や体調に配慮した食事を提供し、“食べる楽しみ”を支援
- ・相談員：ご家族との連携を図り、本人らしい生活の継続を支援
- ・アロマセラピスト：触れるケアを通じて安心感を提供し、穏やかな時間づくりを支援